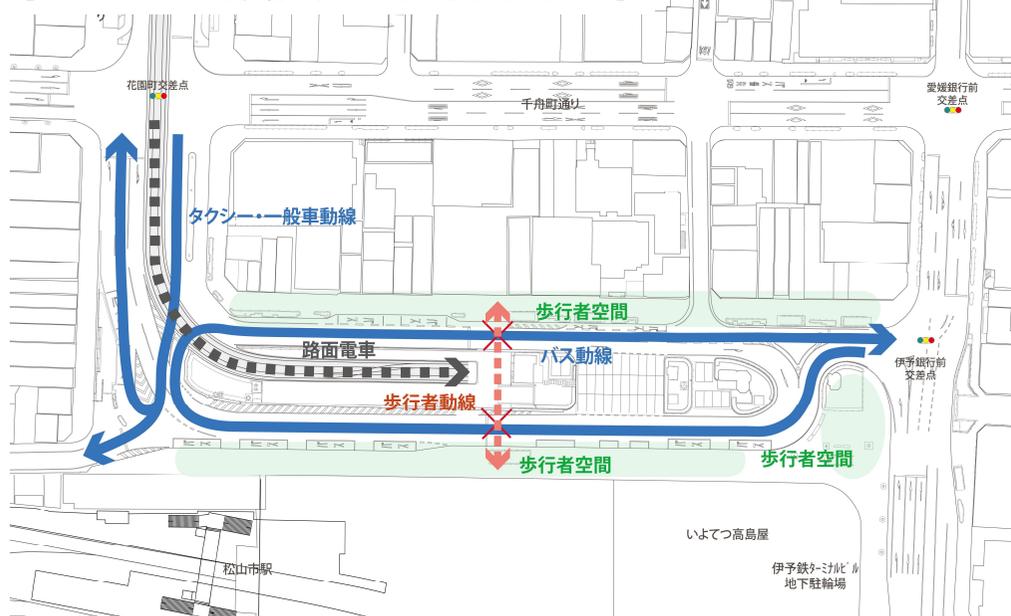


### 3. 社会実験の計画

#### 3-1. 実験パターンの比較検討

- ・ 実験は、(1)交通影響と(2)賑わい創出の2つの視点で実施。
- ・ 両方を同じ形態で検証することが困難なため、実験は2パターンで実施

【パターン1：交通影響の検証を目的とした社会実験】



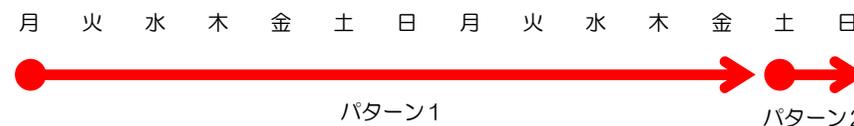
【パターン2：賑わい創出の検証を目的とした社会実験】



視点	検証項目	パターン1 (交通影響 検証案)	パターン2 (賑わい創出 検証案)
交通影響	交通間の乗り継ぎ	×現状と同じ	○車道横断無しで乗り継ぎ可能
	バス乗降場	○現況と同規模のバス乗降場が確保可能 (現状12バス、計画11バス)	×バスター乗降場が十分確保できない。 (現状12バス、計画8バス)
	車両動線	○バス動線とタクシー・一般車の動線は分離	
	タクシー・一般車	○交通影響を検証可能	
賑わい創出	滞留空間	×現状と同じ	○路面電車の南北で滞留空間が拡大

#### 3-2. 実験の概要

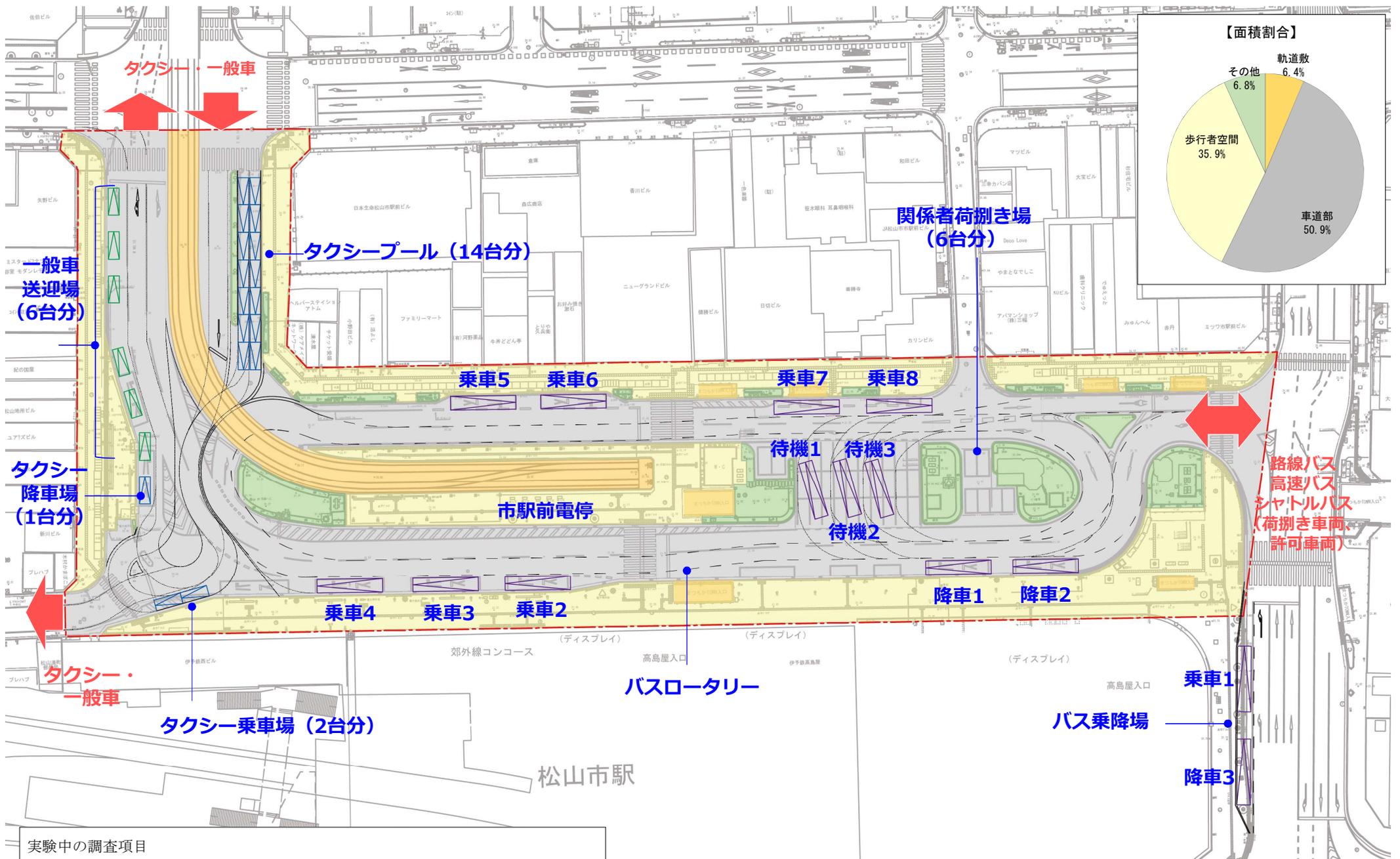
- 実験期間：令和3年11月の14日間（予定）
- 実験方法：期間中、レイアウトの異なる2パターンを実施。
  - ・ パターン1 交通社会実験：12日間（月曜日～翌週金曜日）
  - ・ パターン2 賑わい創出社会実験：2日間（パターン1後の土曜日・日曜日）



#### 3-3. 実験の評価・検証

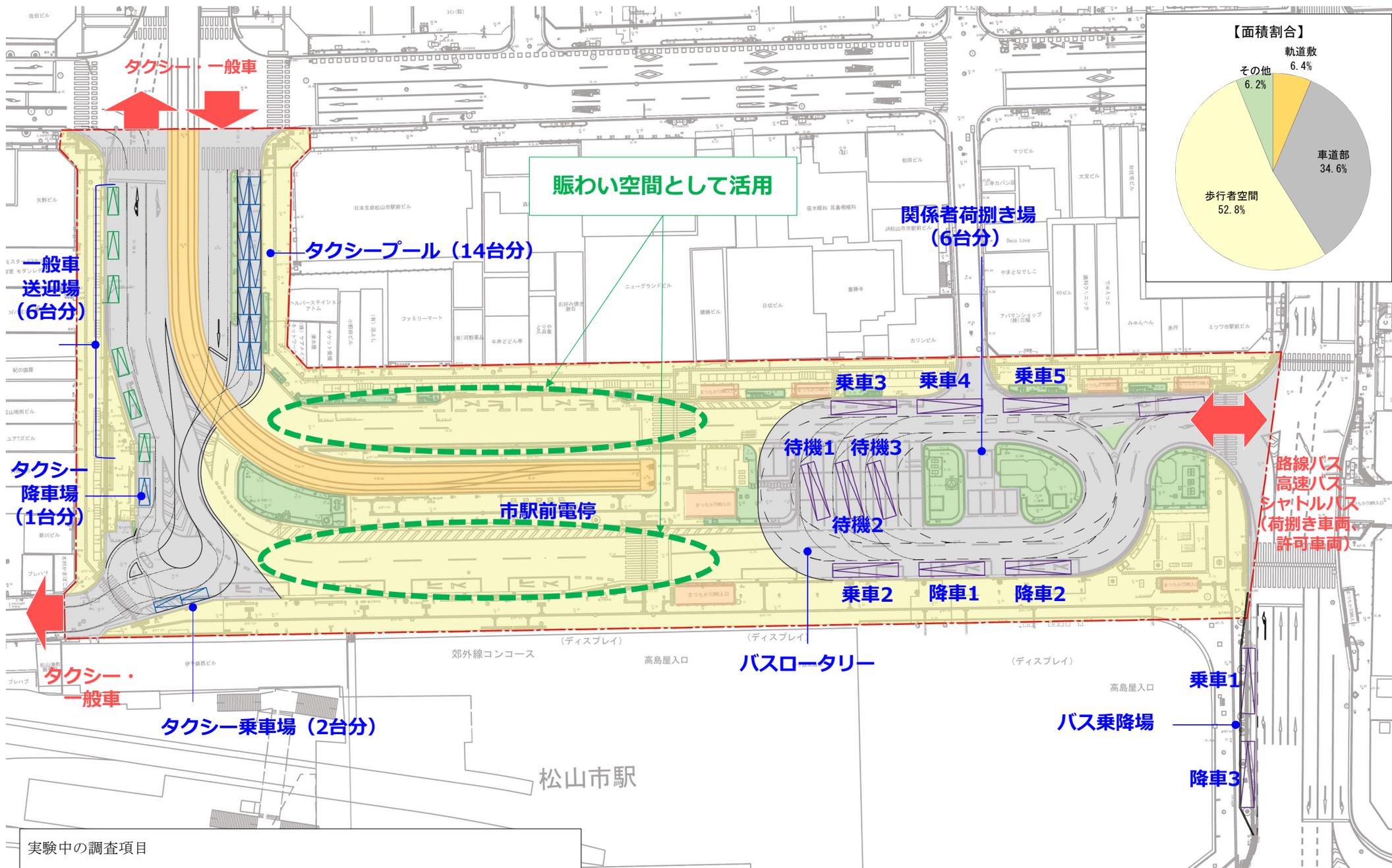
- 市駅前広場内の交通運用の変更に伴う周辺道路等への交通影響
- 歩行・滞留空間拡大による賑わい創出の可能性
- 沿道地域及び駅前利用者の意識変化
- 各種課題の抽出

### 3-4. 実験計画図 (パターン1: 交通社会実験)



実験後に、周辺店舗・事業所等アンケート調査を実施予定

### 3-4. 実験計画図 (パターン2: 賑わい創出社会実験)



実験中の調査項目

✓ 歩行者・自転車通行量調査	→休日1日
✓ 通行者・滞在者ヒアリング調査	→休日1日
✓ 歩行・滞留空間活動調査 (ビデオ定点観測)	→休日1日

実験後に、周辺店舗・事業所等アンケート調査を実施予定